

# 新生児「命綱」に寄付を

横浜市東部地区の新生児医療を支える済生会横浜市東部病院が、新生児集中治療室（NICU）で使う人工呼吸器2台の購入資金2000万円を、クラウドファンディング（CF）で募り始めた。早く産まれたり、病気を抱えたりする赤ちゃんの「命綱」が更新時期を迎えているためだ。医療現場がCFに頼る背景も探った。【本橋由紀】

東部病院は2007年3月に開院した。NICUは6床あり、人工呼吸器は更新済みの1台を含む3台備えている。この機器が必要なのは、主に妊娠26

## 集中治療室 人工呼吸器更新へ

34週に生まれた赤ちゃん。肺機能が十分に発達するといわれる34週以降でも生まれつき心臓に病気があったり、出産時に呼吸できなかつたりする赤ちゃんも利用する。東部病院で産まれてくる赤ちゃん年間約1000人のうち、30〜40人が装着するという。

開院から15年たち、NICU用の人工呼吸器2台は更新時期を迎えた。1台800万〜900万円と高価なため、資金調達の方法としてCFを始めた。県による補助金制度はあるが、購入価格の一部だけで審査もある。採用されるか未知数のため「活用しづらい」という。

## 済生会横浜・東部病院が募る

済生会グループは今3月にCF大手「READY FOR（レディーフォー）」と業務提携した。今回の寄付は1口3000円から100万円までの8コースを用意。1月末までで、折登剛事務長

「READY FOR」の医療部門責任者

は「賛同を得ながら、

地域のみなさんに病院

を知ってもらいたい」

と、地域のクリニック

や連携病院、タウン紙

などで協力を呼びかけている。

### 厳しい経営状況

金を募っている。

背景には厳しい病院

経営がある。赤字経営

の割合は22年に7割

を超えたというデータ

があり、新型コロナウイルス

の5類移行で医療

機関への補助金や診

療報酬の加算も減った。

一方、新型コロナウイルス

流行には対応に当たった

医療従事者らが「エ

ッセンシャルワーカー

」として称賛され、

医療機関への支援の機

運も高まった。改めて

気付かされた医療の大

切さが、CFを後押し

しているようだ。



NICUで赤ちゃんを抱く看護師―済生会横浜市東部病院提供